

組合 New Face !

四日市朝市
協同組合

このコーナーでは、平成25年度以降に当中央会に加入いただいた組合の活動状況等を紹介します。

平成26年2月に当中央会に加入された「四日市朝市協同組合」の渡邊正之理事長にお話を伺いました。

歴史ある新しい市場



渡邊理事長

「朝市」の歴史

四日市市では、12カ所で「朝市」が開催されており、その中で最も規模が大きく、大正11年から90余年も続いている歴史ある朝市が、近鉄川原町駅から徒歩10分、JR四日市駅からは徒歩約16分のところに位置する八幡町三滝川慈善橋（はちまんちょうみたきがわじせんばし）付近で開催されている「慈善橋即売場」です。

現在、この朝市は平成26年2月に設立した「四日市朝市協同組合」が運営しており、2・5・7・0のつく日の朝7時から正午頃まで、鮮魚等の海産物、野菜、果物、乾物、和菓子等を販売しています。

「朝市」の危機

そんな四日市最大の朝市ですが、存続が危ぶまれたことがありました。

平成3年、三滝川の河川改修工事が平成26年度に実施されることが決定され、販売施設の撤去が求められたからです。

しかし、多くの人から朝市の存続が望まれ、署名活動を行って集まった1,700余人の署名を市を経由して県に

提出。その結果、共同販売施設の設置及び管理運営等の事業を行うために協同組合を設立することで、河川改修工事完了後も引き続き「朝市」を開催することができるようになったのです。

「朝市」のリストア

取材の日、市場に訪れた四日市市の担当者から、この慈善橋付近を都市地域再生等利用区域として適正な利活用を行うこと、また、大正時代から続く四日市市の財産でもあるこの歴史ある朝市「慈善橋即売場」を次世代へもつなげていきたいこと、そして、当朝市が買い物弱者の支援にもなっており、継続して市場を開催してほしい、と説明がありました。

2月7日には、販売施設3棟が完成したことを祝し、グランドオープンセレモニーが開催されました。市場内では、あちらこちらで祝福の声があがる中、買物客は店主との距離が近い昔ながらの対面販売の良さを楽しんで買い物をし、「近くにスーパーがあるけど、ここに来ると新鮮な魚や野菜が安く買えるから、10分ほどバイクに乗って、ショッピングついで来る。」「建物が完成して、明るく、きれいになって買いややすい。」などと絶賛していました。

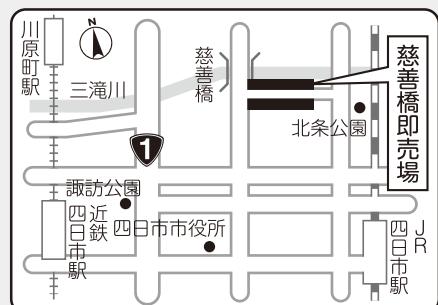
また、組合員は、「新しい販売施設の完成により、自分たちもリフレッシュして、頑張ろうという気持ちになっています。」と話しています。



「朝市」の今後

「現在も朝市を開催することができるるのは、先代の方々が朝市存続の署名活動を行うなど尽力してくださったおかげ。販売施設を建てたので大事に使って、朝市を長く続けていきたい。長く続ける秘訣は、各組合員が努力すること。今のメンバーだけでなく、先輩方にも喜んでいただけるような朝市をこれからも開催していきたい。」

このように渡邊理事長は朝市の今後について、意気込みを語ってくれました。



DATA

四日市朝市協同組合

〒510-0069

四日市市幸町8番4号 丹羽履物店内

TEL.059-353-3774

FAX.059-353-3774

組合員数／56名

設立／平成26年2月10日

中央会加入日／平成26年2月16日